

市議団ニュース

第1783号 2016年1月31日

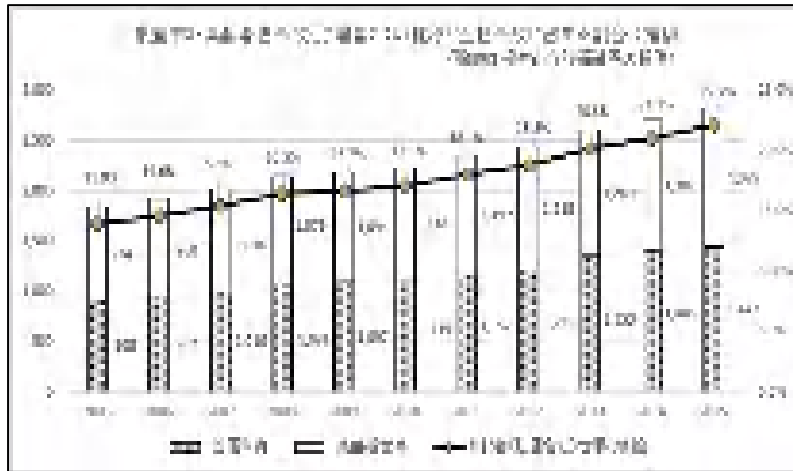
日本共産党 根室市議団

根室市宝林町4-203 23-6023

伸び続ける独居・高齢者世帯を どう地域で支えていくか？ この10年間で1.5倍以上に増加

根室市内の65歳以上の独居世帯と高齢者のみの世帯は合わせて2,829世帯です。これは全世帯数の1/5以上(22.2%)を占めます(2015年9月時点)。2005年の時点では合計1,842世帯でしたので、この10年間で約1.5倍以上に増えてきています。

今後も市内の高齢化の進展とあわせて、この傾向が続いていくものと考えられます。



国民生活基礎調査(2013年調査)によると、国全体の高齢者世帯の割合は23.2%。根室市では全国より若干低い水準で推移していると考えられる。

高齢者の「見守り活動」や「居場所づくり」をすすめていくことも課題

高齢者は、病気やケガ、あるいは認知症等のリスクが、若い世代に比べて高くなります。

独居や近くに家族がない場合、足腰などが弱ってくると、「介護」にまで至らなくても、買い物や通院などの外出や草

取りや除雪といった日常生活に必要な作業を行うことが難しくなってきます。また仕事や趣味などで積極的に外に出ることの少ない方では、人と接することも減り、社会的に孤立してしまう危険性もあります。あるいは収入が国民年金だけの世帯の場合、入院や介護に多額の費用がかかると、低い年金額だけでは負担しきれずに、急激に生活が成り立たなくなってしまう、という恐れもあります。

こうした中、いま改めて地域の中のつながりや支えあいのという点について、しっかりと考え直すことが大切ではないでしょうか。

少し古い資料ですが『平成23年版高齢社会白書』では、高齢者の社会的孤立がもたらす問題点として、

- ア 生きがいの低下
 - イ 高齢者の消費者被害
 - ウ 高齢者の犯罪
 - エ 孤立死
- を挙げています。こうした状況に対して、高齢者の「見守り」や「居場所づくり」という点が以前から、全国的に大きな課題とされています。

根室市では今後、地域の近所の方々やボランティア等の協力で、高齢者世帯への「見守り」などの取り組みをすすめていくことを想定しているそうです。

根室の場合、近隣や知人友人関係など地域での助け合いは、都会に比べて根強い土壌柄と思います。しかし地域住民が自主的に組織だったボランティア活動を実践する取り組みを、全市的に広げるにはまだ難しい状況だと思えます。こうした点で行政側が、さらに様々な仕掛けを行い、主導的な役割を果たしていくことが必要といえます。

国の不条理な介護の制度「改革」を許さない取り組みを

同時に、今後予定されている様々な国の介護制度の「改悪」が大きな影響をおよぼすことが心配されます。

例えば軽度者に対して、専門職がヘルパーなどの介護保険サービスが保険給付から外され、「安上がりだから」とボランティア等の市町村事業に移されようとしています。

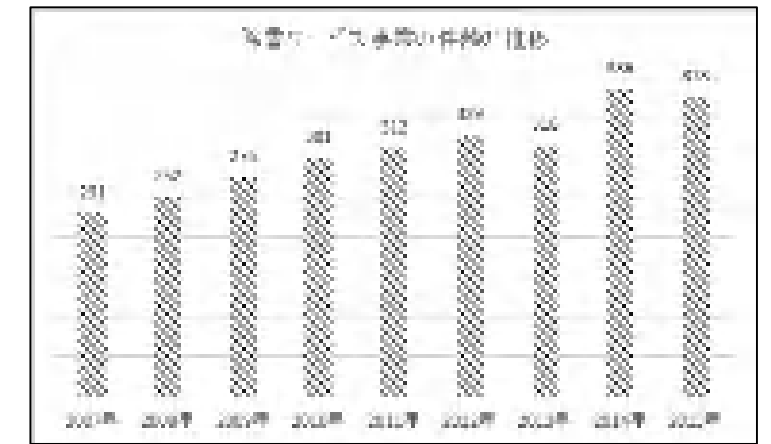
高齢者や家族が、安心して住み続けられる地域をつくるには、様々な介護事業所による専門的なサービスを充実させていく必要があります。そのしっかりとしたサービス基盤の上に、ボランティアや地域の支え合いといった活動を発展させることで、日常生活と地域社会を豊かにしていくことが出来ると思えます。単純に費用削減するだけの制度改革が強引にすすめられれば、介護事業が成り立たず、その分を地域住民やボランティアだけで支えることも出来ず、結局どちらも崩壊しかねません。地域の実態を踏まえ、政府に対して地方から「声を上げていく」取り組みが、引き続き重要です。

ひとり暮らしの高齢者への除雪対応について

市内の独居・高齢世帯の増加に伴い、市の除雪サービス事業への申し込みが急激に増えてきています。今年度の申し込みは378件にのぼります。

従来、高齢者福祉事業団が、市から委託を受けて実施していましたが、除雪申し込み件数増に対して事業団自体の高齢化などもあり、対応が追いついていない実態です。事業団でまかないきれない部分は市役所の市民福祉部の職員が、総出で除雪対応にあたっています。

これまで述べてきたように、独居・高齢者世帯が今後ますます増加していく中で、現状の体制だけではまかないきれなくなることは確実です。除雪は多くの人手が求められる作業で、担い手を広げていくための、新たな仕組みも検討する必要があります。



近年は異常気象とも言える大雪が続いています。今冬は年明けまで降雪がほとんどありませんでしたが、1月19日は大変な暴風雪となりました。吹雪の中でも高齢者宅の除雪に向かった高齢者事業団の方もいたそうです。また嵐のおさまった翌朝からは、事業団や市職員が高齢者宅の安否確認と除雪作業に追われていました。

ただし、それだけでなく暴風雪の最中などでは特に、隣近所で助け合いながら雪かきを行っているケースも大変多く見られたように思います。

根室すずらん学園では、これまで町内会と連携して、独自に出来る範囲で近隣の除雪ボランティアを行ってきたそうです。また今年度から希望の家では市の委託を受けて、施設付近のご家庭の除雪作業を担当することになっています。

今後はいろいろな形で協力してもらえる団体を広げていくことや、あるいは町内会などで少しずつでも地域の中での助け合いを広げていくための、具体的な仕組みづくりを検討していくことも必要ではないでしょうか。